



半分一杯? 半分空っぽ?



のぶはる
鈴木伸治

常葉大学浜松キャンパス
保健医療学部理学療法学科教授

皆さん今日は。また今月も出てまいりました。お付き合いのほど、よろしくお願ひします。

今月のタイトル「半分一杯? 半分空っぽ?」なんて変な日本語ですよ。これは英語の諺を直訳したのですが、200ccのグラスに100ccのビールなりお茶なりを入れた時、「随分あるなあ」と思う場合と、「少ししかないのか」と思う場合があって、随分あると思う方は楽観的で前向な気持ちの表れで、少ししかないと思う方は後ろ向きな感じがするかもしれません。

子どもが100点満点のテストで50点取ってきた時、「50点しか取れなかったのか。ちゃんと勉強しなさい」と言った覚えはあっても、「よくやった。50点も取ってきたのか」と言った覚えは、多分ないでしょうね。

はやぶさが遙か彼方のイトカワという小惑星から砂を持ち帰った時、顕微鏡でやっと見えるような塵のようなサンプルであっても、確かに地球に持ち帰ることができたのだと分かった時の世間の反響はすごかったです。それこそ「よくやった、はやぶさくん」という感じでした。しかし、肉眼では容器の中はほとんど空っぽでしたから、もし容器の中に半分でもはいていたならそれこそすごいことだったに違いありません。

私の叔父は鉄道員で、列車事故で利き手の中指、薬指、そして小指がありませんでした。私がまだ幼かった時には、親指と人差し指しかない叔父の手は異様に思えました。しかし、今思えば当たり前のことですが、叔父は何にも不自由なく仕事はもちろんのこと、何でもできました。実は皆さんも驚くかもしれませんが、片方の上肢を切断した場合、手の機能を代行する、いわゆる能動義手というものはほとんど使われることはありません。何故かと言うと、片手があれば、身の回りのことはほとんどできるからなのです。能動義手は両上肢の切断で初めて威力を発揮します。両上肢の切断で能動義手を使って煙草に火をつけて見せてくれた方がいました。

私が整形外科医になり立てで、髪の毛がまだたくさんあった頃、手の外科の名医が「親指の5mmは他の全部の指を集めたくらい価値がある」と教えてくださいました。親指は日本では指ですが、英語ではthumb(サム)といい、他の指(finger)に比べ別格の扱いです。「グッジョブ(Good job)」

と言いながら親指を真っ直ぐ上に立てたりしますよね。英語圏では指は4本しかないということなのですね。日本にはフィンガー5という歌手のグループがいましたけど…。それはさておき、まだ経験の浅い、美少年のような鈴木医師にある時、腰痛の人が診察を受けにきました。鈴木医師は腰痛そっちのけで、その人の無い親指に釘づけとなります。親指は根元からそっくりありません。当時、母指形成術という親指の欠損に対する顕微鏡を使った趾の移植術があったので、鈴木医師は真心から親指の治療を勧めました。ところが、本人はまったく不自由ではなかったのです。親指の付け根と人差し指を器用に使って文字は書けるし、キーを回して車のエンジンもかけられるのです。鈴木医師は余計なお世話とも気づかず、自分が正しいと思う考えを押し付けようとしていたのです。当たり前ですが、結局その人は二度と鈴木医師の前に現れることはありませんでした。

とは言っても、その人もケガが原因で大事な親指を失ってしまったのですから、その時の驚きや嘆きはいかばかりのものであったのでしょうか。しかし、たとえ大切な親指がなくても何ら不自由なく生活を送れることを鈴木医師に教えてくれたのは、手の外科の名医でもなく、親指をケガで失ったその人本人だったのです。ケガや病気で身体の一部や機能を失うことは稀なことではありません。今までできたことができなくなることは、辛くて悲しいことに違いありません。しかし、皆、いつまでもくよくよして生きているわけではありません。ダンスの世界にも車いすダンスというジャンルがあり、歩くことはできませんが、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれるアスリートはたくさんいます。

誰しも年齢を重ねるにつれ、昔できたことがだんだんできなくなるかもしれません。グラス一杯に入っていた水も、いつしか半分になり、やがて空っぽになるでしょう。しかし、グラスに一滴でも残っていればきっと楽しくに違いありません。できなくなったことなんか、いちいちくよくよせず楽しみましょう。それでは、皆さんレッツダンス!